

第1章

事業の総括評価

趣 旨

評価結果

総括評価

事業の総括評価

令和元年度 日本・中国青年親善交流事業

I 趣旨

日本・中国青年親善交流事業は、昭和54年度に開始され、本年度は41回目の実施となった。

本事業は、日本と中国の青年相互の理解と友好の促進を図ることを目的とし、日本政府と中国政府の共同事業として名称のとおり両国の友好の象徴として実施しているものである。

また、日本青年の育成の観点から、内閣府青年国際交流事業の共通の目的は「世界各国の青年との交流を通じて相互の理解と友好を促進し、国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と次代を担うにふさわしい青年を育成する」ことであり、事業参加によりコミュニケーション力や異文化対応力等の能力向上が図られることをねらいとしている。

以上の目的を達成するため、日本及び中国の双方において、国家及び地方行政組織への表敬訪問、テーマを選

定したディスカッションプログラム、首都に加え複数の地方都市における地元青年との交流等、様々なプログラムを実施しており、人的交流の重視を基本としつつ、毎年見直しを行っている。

今回、本年度事業の成果を測るため、日本参加青年及び中国招へい青年全員を対象として事業終了時にアンケート評価を行うとともに、日本参加青年に対しては、事前研修及び帰国後研修時に、能力向上に関する自己評価の変化について比較調査を行った。

事業終了時のアンケート評価の数値基準は、5段階評価（評価の高い方から5～1）を基本とした。また、日本青年の自己評価の変化に関する比較調査については、他の調査との比較の観点から6段階評価（評価の高い方から6～1）を基本とした。

※参加青年に対して行った5段階評価のアンケートの詳細については「第4章 資料編」参照。

II 評価結果

1. 事業目的の達成度

①日本と中国の相互理解の促進

<日本参加青年>

「この事業を通じて、あなたと中国の人々との相互理解が深まったと思いますか [1-(7)]」との問いに対して、日本参加青年は91%が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、極めて高い評価であった。

<中国招へい青年>

「この事業を通じて、あなたと日本の人々との相互理解が深まったと思いますか [1-(6)]」との問いに対して、中国招へい青年は全員が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、またそのうち86%が5段階評価の5（とても深まったと思う）を付け、極めて高い評価であった。このことから、本事業が中国青年の日本人への理解に大きく役立つことが考察できる。

②日本と中国の友好の促進

<日本参加青年>

「この事業を通じて、あなたと中国の人々との友好が深まったと思いますか [1-(8)]」との問いに対して、日本参加青年は全員が5段階評価の4（深まったと思う）以

上を付け、またそのうち70%が5段階評価の5（とても深まったと思う）を付け、極めて高い評価であった。このことから、本事業が日本青年の中国人への理解に大きく役立つことが考察できる。

<中国招へい青年>

「この事業を通じて、あなたと日本の人々との友好が深まったと思いますか [1-(7)]」との問いに対して、中国招へい青年は93%が5段階評価の4（深まったと思う）以上を付け、極めて高い評価であった。

③プログラムへの満足度

<日本参加青年>

訪問国プログラムの内容についての全体評価 [2-(1)]」は、日本参加青年は96%が5段階評価の4（良かった）以上を付け、極めて高い評価であった。

プログラム別に見ると、5段階評価の5（大変良かった）を付けた日本参加青年は、「ホームステイ [2-(7)]」が15名、「地元青年との交流 [2-(4)]」が13名、「施設訪問 [2-(5)-1]」が11名、「意見交換・座談会 [2-(6)]」が9名であった。

「ホームステイ」の評価が高かった理由として、「あなたは、なぜこの事業に参加したのですか（複数回答可） [1-(1)]」との問いに対して、20名の日本青年が「中国の社会事情、文化等に関心があるため」、15名が「中国

の人たちと人脈を築いたり、友人となったりするため」と答えていることから、日本参加青年は中国の社会事情をよく理解し、友人を作りたいと考えており、中国家庭へのホームステイを通じて中国について理解を深め、親しみを感じるようになったことが一因として考察できる。

<中国招へい青年>

招へいプログラムの内容についての全体評価 [2-(1)] は、中国招へい青年は全員が5段階評価の4 (良かった) 以上を付け、またそのうち93%が5段階評価の5 (大変良かった) を付け、極めて高い評価であった。

プログラム別に見ると、5段階評価の5 (大変良かった) を付けた中国青年は、「東京プログラム『裏千家』2-(4)」が27名、「東京プログラム『ベネッセコーポレーション』2-(6)」が26名、「東京プログラム『意見交換会』2-(7)」が25名、「函館市プログラム [2-(8)]」が25名、「鳥取県プログラム [2-(9)]」が24名、「東京プログラム『株式会社和える』2-(3)」が21名、「東京プログラム『ドゥーミーレジデンス市ヶ谷』2-(5)」が15名であった。

全体的に高評価だが、「裏千家東京道場」や「ベネッセコーポレーション」の評価が特に高かった理由として、「あなたは、なぜこの事業に参加したのですか (複数回答

可) [1-(1)]」との問いに対して、22名の中国招へい青年が「日本の社会事情、文化等に関心があるため」と答えていることから、中国招へい青年は日本の伝統文化や教育事情に対して高い関心を抱いており、プログラムを通じてそれらを理解できたことが一因として考察できる。

④事業参加による参加青年の将来への影響

<日本参加青年>

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか [1-(10)-1]」との問いに対して、日本参加青年は全員が5段階評価の4 (役立つと思う) 以上を付け、またそのうち57%が5段階評価の5 (とても役立つと思う) を付け、極めて高い評価であった。

<中国招へい青年>

「この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか [1-(8)]」との問いに対して、中国招へい青年は92%が5段階評価の4 (役立つと思う) 以上を付け、極めて高い評価であった。

これらの評価から、本事業が参加青年の将来形成に大きく役立つことが考察できる。

2. 日本参加青年の成長

①個人の能力の向上

本事業の日本参加青年に対し、事前研修時と帰国後研修時での能力の成長の変化について6段階 (6=十分備えている、5=備えている、4=ある程度備えている、3=あまり備えていない、2=備えていない、1=全く備えていない) による比較調査を行ったところ、次のような結果になった。

- 「コミュニケーション能力」については、
3.9から4.7となり、0.8ポイントの増。
「異文化に対応する能力」については、
4.1から5.0となり、0.9ポイントの増。
「チャレンジ精神」については、
4.1から4.7となり、0.6ポイントの増。
「問題解決能力」については、
3.6から4.6となり、1.0ポイントの増。
「企画力」については、
3.3から4.3となり、1.0ポイントの増。
「マネジメント力」については、
3.4から4.2となり、0.8ポイントの増。
(ポイント数については、小数第二位を四捨五入)

伸び幅が最も大きかったのは、「問題解決能力」と「企画力」であった。

「問題解決能力」は、派遣団における意見の相違や、訪問国活動中の突発的な環境の変化が生じた場合に、どのように対処すべきかを経験する機会が多かったため向上したものと考察できる。

また、「企画力」は、自主研修期間中、積極的に中国や日本の文化を事前学習したり、中国での意見交換会の成果を高めるべくプレゼンテーションの内容を検討したりする過程で大きく身についたものと考察できる。

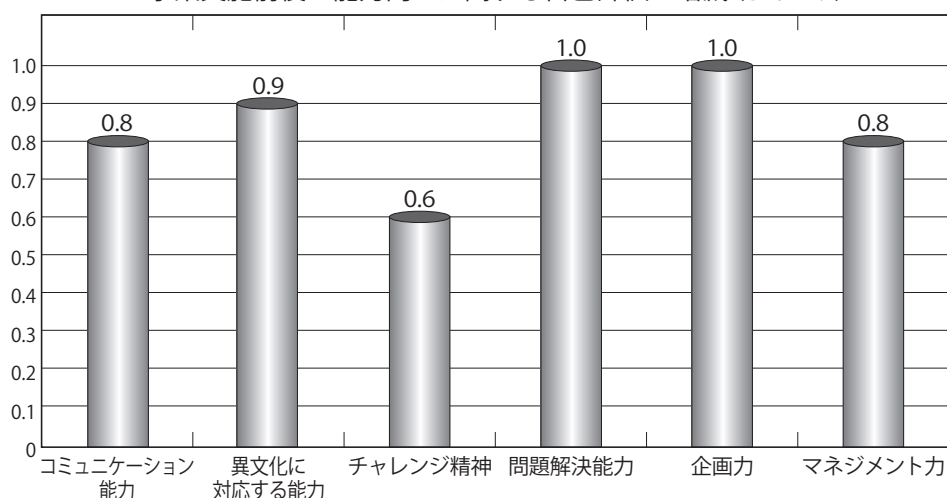
次に伸び幅が多かったのは、「異文化に対応する能力」であった。その理由として、中国滞在中は様々な中国青年等との交流やホームステイが用意されており、異文化を直接体験し、向き合う機会が多かったことから向上したものと考察できる。

②社会貢献活動への意欲

「事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲等を持ちましたか [1-(9)]」との問いに対して、日本参加青年は83%が5段階評価の4 (ある程度意欲を持った) 以上を付け、高い評価であった。

一方、5 (十分に意欲をもった) を付けたのは全体の35%であり、本事業の参加を通じて社会貢献活動への意欲を大きく向上させるには引き続き検討の余地があると思われる。

事業実施前後の能力向上に関する自己評価の増減 (ポイント)



3. 中国招へい青年の成果

①日本に対する印象の変化

「この事業に参加して日本に対する印象は変わりましたか [3-(1)]」の問いに対して、中国招へい青年は93%が5段階評価の4 (良くなった) 以上を付け、極めて高い評価であった。

「もともと日本への印象がよく、ホームステイを通じて日本をより深く知り、好きになった」というコメントもあり、本事業を通じて日本に対するイメージがより具体的になったのではないかと考察できる。

②事業に参加して得た成果

「この事業からどのような成果を得ましたか (複数回答可) [1-(4)]」の問いに対して、中国招へい青年は29名中27名が「日本の社会事情や日本の文化について理解を深めることができた」を選択し、29名中14名が「中国に誇りを感じるようになった」を選択した。

これらの評価から、事業に参加することで日本に対する理解を深めるだけでなく、異文化理解に触れることで自国を振り返るきっかけになっているのではないかと考察できる。

Ⅲ 総括評価

最後に、アンケートの総合評価を含めて、今回の総括評価をまとめる。

<日本参加青年>

「事業全体をどのように総合評価しますか [1-(2)]」との問いに対して、日本参加青年は97%が5段階評価の4 (良かった) 以上を付け、極めて高い評価であった。

<中国招へい青年>

「この事業をどのように総合評価しますか [1-(2)]」という問いに対して、中国招へい青年は全員が5段階評価の4 (良かった) 以上を付け、またそのうち93%が5 (大変良かった) であり、極めて高い評価であった。

日本参加青年、中国招へい青年共に、5段階評価の4以上の割合が90%を超え、多くの青年が本事業を高く評価していることが分かる。

日本参加青年からは「青年との交流機会はもちろん、中国最先端ともいえる企業や施設を見学させていただいたことは本当に貴重な経験になった」「同じ年代の学生と直接言葉を交わし、彼らの考えを知ることを通して、中国の若者に対する理解が深められた」等のコメントがあった。

また、中国招へい青年からは「国家間には交流が必要であり、互いによりよく相手を知ることができる」「訪問地も訪問企業の選択も周到に考慮されていた」等のコメントがあり、そのような諸点を勘案してみると概ね、日本と中国それぞれにおいて現地青年等との交流活動等の各種プログラムを通じて、両国青年相互の理解と友好の促進を図るとともに、参加青年の成長に良い影響があったものと結論づけられる。

以上、評価結果から導き出せることは、本事業の目的である「日本と中国の相互理解と友好の促進」に関して、日本参加青年及び中国招へい青年が共に事業参加による効果の認識を示すなど、十分な成果を収めたものと評価できよう。